2011－12年度　田辺東ロータリークラブ週報

第1825回　例会

2011-12年度RI会長:カルヤン・バネルジー
第2640地区ｶﾞﾊﾞﾅｰ:大澤　徳平
創立:昭和49年5月15日
会長:上原俊宏
幹事:佐田一三
会報:榎本真弓

こころの中を見つめよう　博愛を広げるために

VOL. 38　No. 29
2012年 2月22日（水）

事務所:田辺市下屋敷町81－10
きのくに信用金庫田辺支店3F
Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
E-mail　t-eastro@mb.aikis.or.jp
例会:毎週水曜日　12:30～

司会者　上原　俊宏会長

唱　歌

”それでこそロータリー”
山本　亘　君

ゲスト　”聖福寺　住職　関守　研悟　様”

出席報告			
会員数	義務免除	欠席者数	本日出席率
48名	4名	8名	81.82%
2月8日　修正出席率　86.36%			

ニコニコ箱

（敬称略）
◇関守研悟様をお迎えして。
平野、片井、木村、北村、栗山、丸山（博）、岡本
佐田、竹村、谷中、玉置、上原、浦地、吉本
◇ファンです。　吉田
◇丸山さんいつもありがとうございます。　畔田
◇一億円の借人（35年ローン）決定しました。愛須
◇今日早退します。今週土曜日奇絶峡で清掃活動行います。3時です。宜しくお願いします。　森本
◇早退お詫び。　中川
◇本人及び奥様誕生日。　杉若、山下
◇お花頂きます。　武田

会長報告の前に

来る春に備えて桜の木も若芽を覗かせています。が、一口にサクラと言っても、様々です。
全てのサクラではなく、現在は、寒緋桜、河津桜が色づいています。でも江戸彼岸も大島桜も普賢象もまだ硬いままです。
先の土曜日には青い空から雪が降りました。風花でしょうか。まだ寒い日も来るかも知れませんが、その雪が名残雪であったと思います。
あとは、春が来るのみ。春を望むのみ。
藤村の「遠く望むの歌」から。

高嶺に登りまなじりを
きわめて望み眺むれば
わがゆくさきの山河は
目にもほがらに見ゆるかな
みそらを浚ぐ雲の峰
砕けて遠く青に入る

会長報告

◎本日のお客様は白浜町の聖福寺　住職　関守（せきもり）研悟（けんご）様です。後程宜しくお願い致します。
◎2月25日（土）に田辺東ＲＣはまゆうＲＣの創立２０周年記念式典が開催されます。
佐田幹事と会長の上原が出席して参ります。
◎ガバナー事務所より「（2013-2014年度ガバナー）ガバナーノミニー確定宣言」が届いています。回覧していますので、お目通しお願い致します。
◎ガバナー事務所より、ＲＬＩ（ロータリーリーダーシップ研究会）のパートⅠ・Ⅱ・Ⅲの受講を完了された平野 好史君に、修了証とバッジが届いています。ご苦労様でした。

幹事報告

■例会日時変更
◎海南西ＲＣ　　3月1日（木）→　休会
◎和歌山東南ＲＣ
3月7日（水）→　3月9日（金）18：30～
場所：アバローム紀の国
「和歌山南ＲＣとの合同例会」
◎和歌山中ＲＣ
3月2日（金）→　場所：ルミエール華月殿
プログラム：会員卓話

1月 9日（金）→　場所：ルミエール華月殿
プログラム：第３回クラブ協議会
3月30日（金）→　場所：アバローム紀の国
プログラム：フリートーキング

■回覧
◎「やおきジャーナル55号」
◎（公財）和歌山県水上安全協会より水の事故統計資料「わかやまの水の事故」
◎ガバナー事務所より「新入会員研修セミナー開催のご案内」「青少年・ライラ研修会開催のご案内」「地区大会記念ゴルフ大会開催のご案内」（4月2日）「地区大会のご案内」（4月7日・8日）と参加申込表、多数の参加申し込みをお願いします。
◎2012-2013年度版　ロータリー手帳の申し込み表本日申し込み締切とします。
◎社会奉仕委員会より「奇絶峡周辺の清掃活動と懇親会のご案内」＜2月25日（土）＞
◎3月28日（水）移動例会のご案内（出欠表）

■連絡
◎随筆集「土」を上原会長より頂いています。事務局に置いてあります。
◎新年家族会の日に撮影いたしました、４０周年記念事業の1つ、アルバム作成のための写真ができてきました。各自用にプリントした物を各自トレーに入れてあります。宜しくお願いします。
◎2月8日（水）卓話の岩間神信合氣修練会　田辺支部　秋津野胆練道場　井口伸輔　様よりお礼状が事務局に届いています。

■　委員会報告　■

■社会奉仕委員会

畔田　実　君

1．2月25日（土）
15:00より奇絶峡周辺の清掃活動を行います。
その後、懇親会（徳乃）を開催します。

■プログラム委員会

吉本　正美　君

1．来週の外卓は「内之浦湾を守る会：越原様」です。
楽しいお話が聞けますので楽しみにして下さい。

本日のプログラム

～　聖福寺住職　関守研悟様　卓話　～

【プロフィール】
１９７２年　和歌山県　白浜町に生まれる。
１９９１年　智辯学園　和歌山高等学校卒業。
１９９５年　早稲田大学法学部を卒業後、神戸の祥福寺専門道場に掛塔。河野太通老大師・木村太邦老大師の鉗鎚を受ける。
２００５年　当山住職就任。
２００８年　花園大学大学院博士後期課程卒業、現在に至る。
花園大学講師。文学博士（仏教学）。

只今ご紹介に与りました、関守研悟と申します。
白浜駅から少し富田の方に行きますと山の上に小さな寺が見えるんですが、そこの、聖福寺の住職をさせて頂いております。
今日は、田辺東ロータリークラブの例会にお招き頂きまして、田辺の名士の皆様方にご挨拶できますことを誠に光栄に存じます。ありがとうございます。
私は近年、老人福祉施設、所謂老人ホームやデイサービスへの慰問、今は訪問というそうですが、たまにお邪魔して、利用者の方々と唱歌や童謡を一緒に歌う、という活動をさせていただいております。
活動のきっかけは偶然で自慢できるようなものではありません。
今から６年前に住職となりまして、すぐに老人ホームの園長さんから（椿園）、檀家さんだったので、何か話をしに来て欲しい、と依頼がありました。
私は人前で話をするのは苦手でしたので、これは困ったと。ましてや相手は超ご高齢の方、人生の大先輩ですから、何を話せばいいんだと。
そこでひらめいたのが、「歌でも歌ってごまかそう」と言うわけではありませんが、唱歌や童謡なら懐かしく聞いて下さるんじゃないかと。
子供の頃にピアノを少しだけ習っていて、学生時代には勉強もせずにギターばかり弾いていましたから、椿園で半分は話をして、あとの半分はさくらとか、赤とんぼとか、ふるさととかの唱歌をギターの弾き語りで一緒に歌って頂きました。
そうすると後の挨拶の中で、法話に関しては全くのノーコメントだったんですが、歌が良かったと、とにかく

歌が良かったと歌ばかり褒めてもらって複雑な気持ちで帰りました。
そんなことがきっかけで、老人福祉施設に興味を持つようになりました。
　施設に行くようになって初めて分かりましたが、生まれてきて、老いて、病にかかって、死ぬというこの世の真実、釈尊の達観が凝縮された場所です、そこは。
　インドのガンジス川のほとりには「死を待つ人たちの場所」があるそうですけれども、こんな近くにも「死を待つ人たちの場所」があったんだなあと気付きました。
家族にとってもどちらかと言えばよい話ではないのであまり公にはなりませんけれども、老人福祉施設を利用している方々、沢山いらっしゃることが分かりました。
　私の住んでいる白浜町は合併後でも人口２万３千人、市になれなかった小さな町ですが、48箇所の老人福祉施設があります。すべてにお邪魔することはできませんが、なるべく時間を見つけてお邪魔したいと思っています。
　そんな活動をつづけております内に、健康な方々を対象とした研修会や講演会に、たまにお招き頂くようになって、現在に至っております。
　大したことはできていませんが、ともかくきっかけは全くの偶然だった、ということです。
　ぼうさんが人前でギターとかピアノを弾く、それだけを聞くと「変わったことしよんな」と、お思いになっておられる方々もたくさんいらっしゃると思いますが、実は目新しいことではないようでして、この国でも平安時代や鎌倉時代にさかのぼりますと、琵琶法師が楽器を使って、諸行無常の真実を分かりやすく説いたという歴史もあるそうですので、実は昔から使われていた手法であるようです。
　宗教的に見ましても、お釈迦様が亡くなられた後、弟子たちが集まって釈迦の言葉をどう聞いたか後世に伝えるために集まった、それを「仏典結集」というそうですが、「結集」というのはサンスクリット語で、「ともに歌うこと」という意味だそうです。（他の宗教でも、イスラム教のコーランにも旋律があるそうですし、キリスト教にも賛美歌がありますし、神道の祝詞（のりと）にも独自の節回しがあります。）
さらにもっともっと遥か昔に思いをはせてみても、「歌を歌う」ということ、それは、太古の昔から、人間が用いてきた、感情をあらわす手段であったようです。そしてそれは、多分に宗教的要素を含んでいたのではないかと思います。
　私たちは遥か昔から、歌を歌い、歌を聞くことによって心の安定を、心の安らぎを得てきたのではないかと思います。この「心の安らぎを得る」という点において、ぼうさんが歌を歌ってもいいんじゃないかと、そう考えて、壇務の傍ら、細々と活動を続けさせて頂いております。

●リクエスト
「上を向いて歩こう」「坂本冬美の曲」を披露

聖 福 寺 へようこそ

和歌山県白浜町の自然に囲まれた禅寺です。名勝「徳雲庭」は一見の価値あり。 永代供養堂、仏教QandA、熊野古道の紹介の他、妙心寺派 無相教会花園流 御詠歌 所作・心いやされる歌を聴くことができます。

聖福寺（しょうふくじ）は、和歌山県西牟婁郡白浜町堅田にある臨済宗妙心寺派の寺。山号は松尾山。本尊は千手観世音菩薩。
江戸時代初期の寛永年間（1624年 - 1643年）に、一株祖典（いっちょうそてん）禅師が全国行脚の途中この地にやってきて、ここにあった法雲庵という修行場を整備して、聖福寺を創建。ただし、彼は開山とはならず、自らの師、夾山東寛（かっさんとうかん）を開山とした。特雲庭という名園がある。「熊野曼荼羅三十三霊場」の札所。

●プロフィール

1911（明治44）年6月26日、栃木市に生まれる。
裕福な米穀商の一人娘だったが、10代の頃に家が傾き、料理屋などへ奉公に出る。
33歳のとき、調理師の柴田曳吉と結婚。翌年、健一を授かる。
曳吉とは1992（平成4）年、死別。以来、宇都宮市内で一人暮らし。
腰を痛めて大好きな日本舞踊が出来なくなったことをきっかけに、
90歳を過ぎてから息子・健一のすすめで詩作をはじめる。

～　振り込め詐欺犯さんに　～

今　あなたの
している事を知ったら
あなたの家族は
どう思うかしら

子どもの頃（ころ）
あなたには
やさしい心があった筈（はず）

風の囁（ささや）きも
聞こえた筈よ

弱い人たちを
苦しめないで
その知恵を
良い事に使ってください

このポスターで、
柴田トヨさんの言葉（ことだま）の力で、
詐欺犯さんへ、心の叫びが届きますように・・・

『くじけないで』の柴田トヨさんが「被災者の皆様に」詩作

2011.3.17　産経ニュースより

処女詩集『くじけないで』が１５０万部のベストセラーとなっている詩人、柴田トヨさん（９９）から１７日、産経新聞社に、東日本大震災の被災者に向けた詩「被災者の皆様に」が届いた。トヨさんは詩集の印税から１００万円を寄付したいと話している。

～　被災者の皆様に　～

あぁ　なんという
ことでしょう
テレビを見ながら
唯（ただ）　手をあわすばかりです

皆様の心の中は
今も余震がきて
傷痕（きずあと）がさらに
深くなっていると思います
その傷痕に
薬を塗ってあげたい
人間誰しもの気持ちです
私もできることは
ないだろうか？　考えます
もうすぐ百歳になる私
天国に行く日も
近いでしょう
その時は　日射（ひざ）しとなり
そよ風になって
皆様を応援します

これから　辛い日々が
続くでしょうが
朝はかならず　やってきます
くじけないで！